

(8) 中国



中国地域では、景気は回復の動きに足踏みがみられる。

- ・ 鋳工業生産は堅調に推移しているものの一部に弱い動きがみられる。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

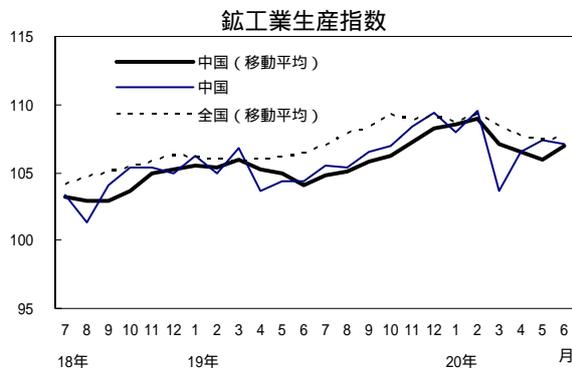
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鋳工業生産は堅調に推移しているものの一部に弱い動きがみられる。

化学は、一部の事業所で定期修理があったものの、自動車や家電関連向けを中心に好調だったことから増加している。鉄鋼は、自動車、造船等を中心とした海外からの需要が引き続き旺盛だったことからおおむね横ばいで推移している。輸送機械は、アジア、欧州、新興国向けに好調であったものの、足下ではやや低下している。一般機械は、一般用蒸気タービン、ボイラ部品、印刷機械等の生産が好調だったことから増加している。電子部品・デバイスは、半導体集積回路、固定コンデンサが横ばいだったものの、中小型のアクティブ型液晶素子の生産が好調だったことから増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

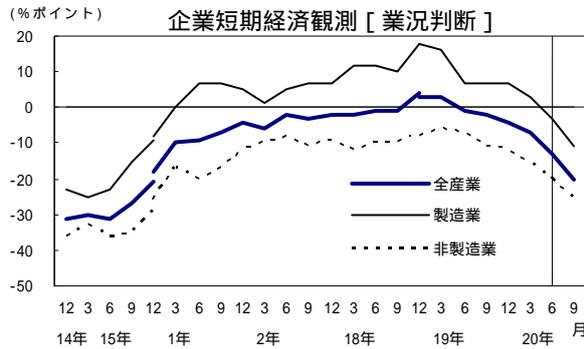
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
鉄鋼	16.5	1.8	1.2	5.6	8.0
化学	16.1	3.6	3.7	0.6	7.0
輸送機械	14.8	8.3	1.5	3.0	45.8
一般機械	10.7	13.1	11.1	8.5	2.6
電子部品・デバイス	7.3	9.2	5.3	5.7	-
鋳工業	100.0	1.1	0.0	0.2	3.0

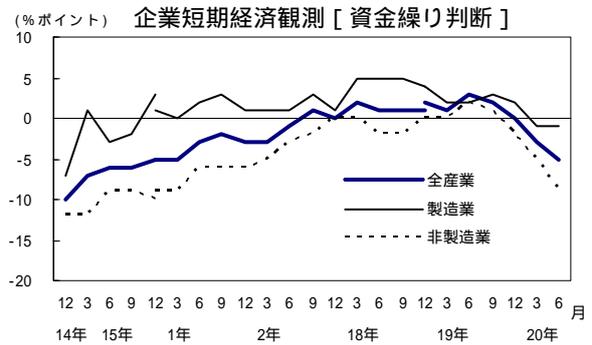
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

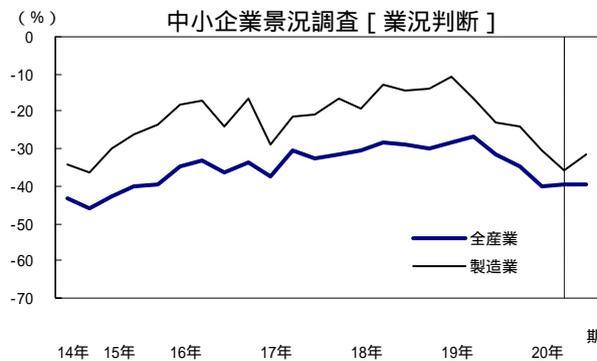
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。20年9月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。20年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

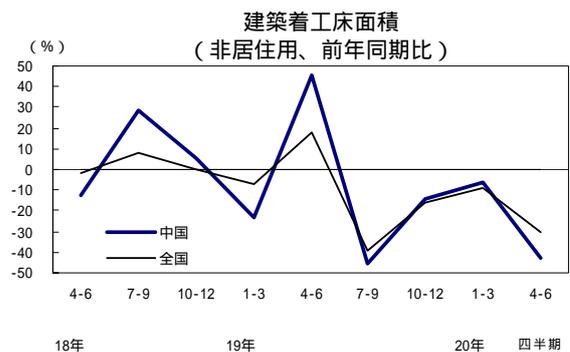
「大口案件がありながら、生産量は低水準であり、新規の引き合いも少ない。原材料価格は高騰の一途で、製品価格への転嫁を行ったが十分にはできていない。さらに製品価格改定後も、原材料価格は高騰が続いている(窯業・土石製品製造業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 20年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	9.4 (1.9)	1.9 (0.7)
製造業	5.8 (10.9)	5.7 (2.4)
非製造業	15.8 (1.1)	4.2 (5.0)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

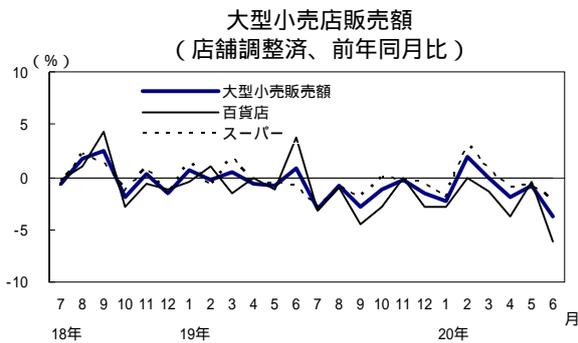
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、紳士服・婦人服ともに春物・初夏物が不調だったことから前年を下回った。5月は、母の日関連商戦が盛り上がり欠け、衣料品が低調だったことから前年を下回った。6月は、中元商戦は順調な滑り出しだったが、前年は6月末だった夏のクリアランスセール初日が今年7月となったこともあり、婦人衣料などが大幅に減少したことから前年を下回った。

スーパーは、飲食料品が食に対する安全志向の高まりなどから国産の精肉が好調だったものの、衣料品、身の回り品などが低調だったことから全体では3か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「ある旅館へ訪問した際、お盆の個人客の予約にすらまだ空室があった。例年であれば、今の時期は客にお断りをしている時期で、今までにない状況である(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

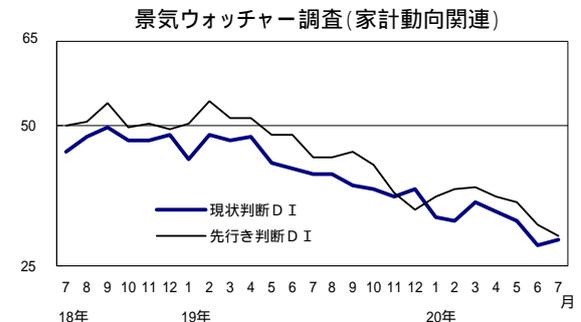
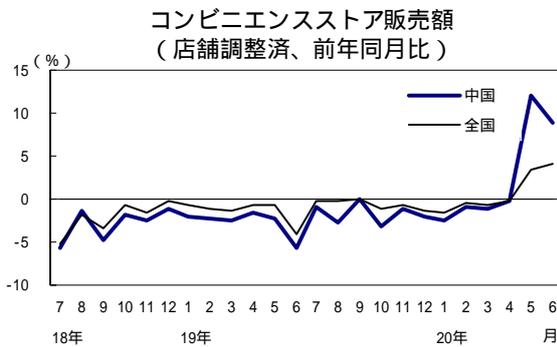


(前年同期比、%)

	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月
大型小売店	2.4	1.0	0.3	2.2
百貨店	3.0	2.0	1.6	3.5
スーパー	1.9	0.4	0.5	1.4
コンビニ	1.3	2.1	1.5	6.9
景気ウォッチャー	40.8	38.3	34.4	32.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

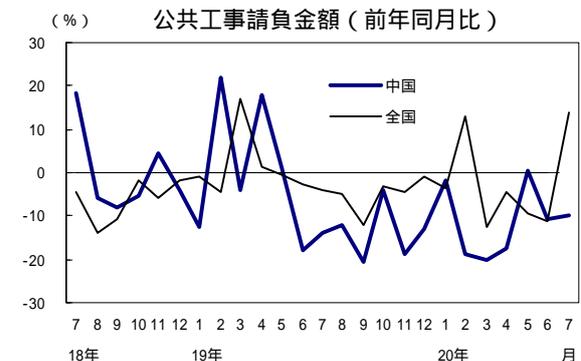
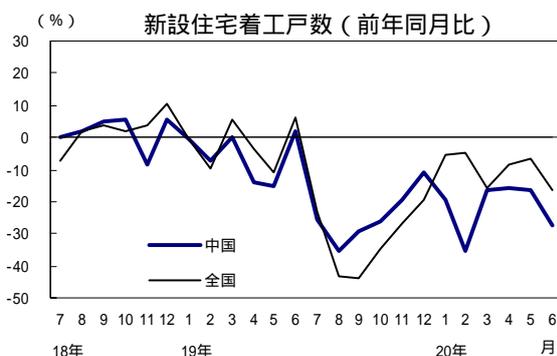
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。

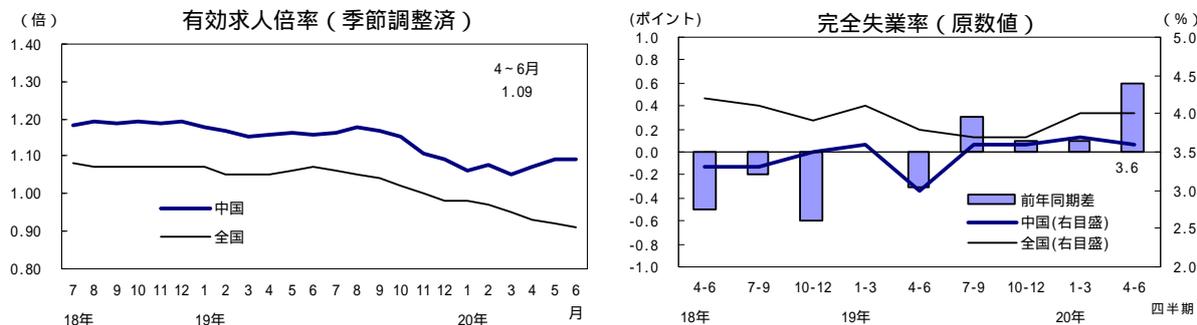


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きに足踏みがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

「合同企業説明会への参加申込のペースが落ちてきている (求人情報誌製作会社)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数が大幅に増加し、負債総額も増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	19年7-9月	10-12月	20年1-3月	4-6月	20年7月
倒産件数	144	156	161	199	69
(前年比)	17.7	0.0	1.9	38.2	16.9
負債総額	897	624	524	662	366
(前年比)	25.8	58.5	14.3	45.8	87.5



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・タスポの導入でたばこの売上が増加している。また、猛暑で飲料・アイス・冷やし麺などが好調である。弁当などの単価が下がったり、その他商品の買い控えも見受けられるが、それを補う以上に売上は増加している (コンビニ)。

<先行き>

・本当に客は無駄な物は買わなくなっており、店に行くと欲しくなるからと、ウィンドウショッピング自体控えている声も多いので、まだまだ厳しくなる (衣料品専門店)。

